

農業の新しい技術

No. 757

(令和6年(2024年)6月)

分類コード 01-14

熊本県農林水産部

黒毛和種種雄牛「美津福久」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室

担当者：福島敬太

研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、産肉能力現場後代検定及び育種価評価を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。

研究の成果

1. 脂肪交雑とロース芯面積に優れた黒毛和種種雄牛「美津福久」を選抜した。

○血統

父 美津照重 (黒高 2050)	祖父 美津照(黒 13162)	— 美津福(黒原 2748)
	祖母 いつみ(黒原 1159970)	— 美津福(黒原 2748)
母 しげ (黒原 1494695)	祖父 安福久(黒原 4416)	— 安福 165 の 9(黒原 1683)
	祖母 しげかず(黒原 1255059)	— 平茂勝(黒原 2441)

○登録番号：黒15609

○生年月日：平成29年11月6日

○生産地：菊池郡大津町(本田 光晴氏)

2. 現場後代検定成績および育種価

○脂肪交雑は雌が BMSNo. 10.50、全体平均が 9.07 でいずれも歴代最高の成績となり、育種価でも 3.49(評価種雄牛 2,951 頭中 11 位)と高い評価となった。

○ロース芯面積は雌が 68.8cm²で歴代最高の成績となり、育種価でも 21.60cm²(評価種雄牛 2,951 頭中 113 位)と高い評価となった。

○SBV^{*}は脂肪交雑 3.08、ロース芯面積 2.03、歩留基準値 1.64 と脂肪交雑とロース芯面積、歩留基準値の形質について改良効果が大きいと推定される。

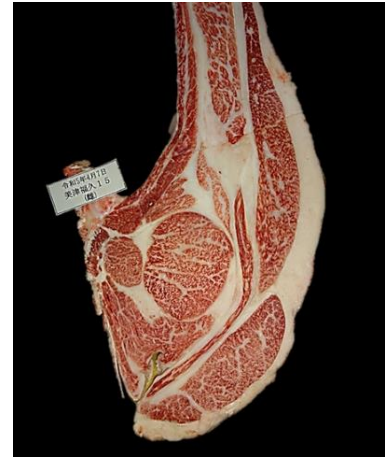
※SBV(標準化育種価)とは、産肉能力の特徴を把握しやすくするため、各形質の育種価を同一スケール上で比較できるよう加工したもの。

3. 特徴

本牛は、当時、ロース芯面積、脂肪交雑の育種価が県内上位 10%以内(現存牛 13,240 頭中)とトップクラスであった母牛と脂肪交雑の能力に優れる「美津照重」の交配により作出された。特に雌牛産子の成績に優れ、ロース芯面積、歩留基準値が 68.8cm²、75.6 といずれも歴代最高の成績である。また、脂肪交雑では雌の BMSNo. が 10.50、全体平均で 9.07 と歴代トップの成績であり、特に肉質の改良への貢献が期待される。

[具体的データ]

熊本県農林水産部



産子(雌)の枝肉写真・成績
 格付:A-5 枝重:496.2kg
 BMSNo.12 ロース:70cm²
 ばらの:8.2cm 母の父:諒太郎

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	脂肪交雑 (BMSNo.)	ロース 芯面積 (cm ²)	ばらの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	歩留基準値
去勢	9	483.1	8.11	62.4	7.3	2.1	74.4
雌	6	480.8	10.50	68.8	8.1	2.4	75.6
全体	15	482.2	9.07	65.0	7.6	2.2	74.9

表2 育種価(BV) (R6.4月評価)

	順位	育種価	(正確度)
枝肉重量 (kg)	699	47.18	(0.89)
BMSNo.	11	3.49	(0.89)
ロース芯面積 (cm ²)	113	21.60	(0.89)
ばらの厚さ (cm)	914	0.61	(0.87)
皮下脂肪の厚さ (cm)	928	-0.53	(0.89)
歩留基準値	180	3.10	(0.89)

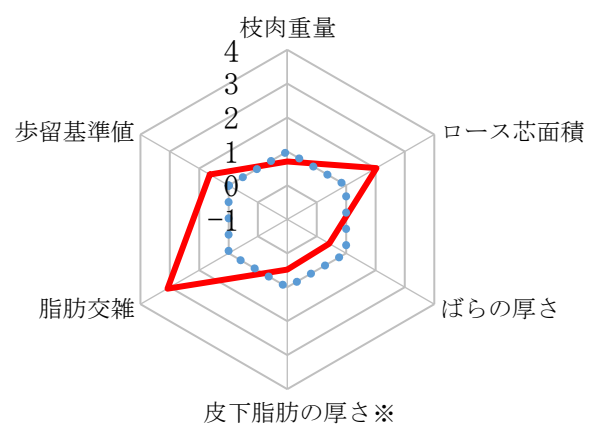


図1 SBV (標準化育種価)

※ 皮下脂肪は逆符号

後代頭数 16 頭(フィールド成績を含む)

順位は評価種雄牛 2,951 頭中の順位